

1 a 一大
b 側面
c 予算

2 A 茶
B 常
C 好
D 色
3 (記述題)
4 自感
(完答)

5 (記述題)
6 人間の「本」
7 イ
8 エ
9 だから人々
10 複雑がある
(完答)

2 a 無音
b 小花
c 万年筆

2 夏
3 引き取り手
4 A イ
B ウ
C エ

5 ア
6 I そうだよね
II ウ

7 (記述題)
8 ウ
9 かなこ
エ
ア
咲子

1
3 意欲的な取り組みやタブーを破る
よう。なことをしないこと。

(同意可)

5 テレビが 面倒な説明なしに、すぐわかってもらえるものごとばかりを放送するようになること。

(同意可)

2
7 自分のお手紙をきいたこと。自分の思ったことをきいたこと。自分の思ったことをきいたこと。

(同意可)

「配点」	
1	1
3	2
5	2
7	1
4	4
各4点	各6点
×14	×13
56	18
点	点

- 1 aは、字は易しいが、語彙力を問うものになっている。bの「側面」については、同音の別字に気を付けてほしい。「則」「測」などではないこと。cの「予算」は「これから使う予定のお金やその計画」のこと。
- 2 A「お茶の間」は「家族団らんの間」のことをさして使う慣用的な表現である。これは知っておいてほしい。B「くの常」は「いつもそうである」あるいは「繰り返される」ということ。二か所目は、チャンネルを変えられないようにという意識を強く持つ状態を表すはずであるから「常に」が入る。C「大好物」は、「これ」の指示先を考え、「テレビが『これ』ばかりする」というような内容だと見当をつける。D「色とりどり」は「多種多様であること」。ここでの用法のように色について用いられることがもろろのことながら多い。
- 3 「この場合」という指示があるので、テレビの場合を答える。また、「お行儀よく」の説明が求められているので、「∴をしない」という方向性で書けるのではないかと見当をつけられるとよい。
- 4 「かくしてテレビは文化の担い手としての意識をだんだんと失っていく」という文から、ここより前に同内容表現があるのでないかと見当をつけられるとよい。自分たちが文化を背負っている、つまり、その時代をつくっていると考えていたということ。
- 5 続きを丁寧（ていねい）に読もう。「多くの視聴者が見たいと思うものを放送しようとする」とは答えにならない。これの「別の顔」を答えたのである。何を放送することになるのか、と考えて続きを読み進めると、「面倒な説明なしに、わかってもらえるもの」を放送するようになることが書かれている。
- 6 食事、恋愛などはあくまでも具体例である。これらをまとめて何と言っているのかを考えてほしい。「そう考えてくると、多くの人の興味を引き付けられるのは」に続く部分を特に重要視して読む必要があるだろう。
- 7 この一文だけ見ると池上彰さんを称賛しているようにも見えるが、本文全体がどのような主旨（しゅし）であったのかということと照らし合わせながら読まなければならない。「複雑なもの、わかりにくいものが排除されていく」ことに対して危機感を持っているということがこの文章の出発点であった。
- 8 「おせっかい」という傍線部の表現の説明としてふさわしいかを考えなければならない。「余計な世話」ということは「本来なくてもよい」というニュアンスを含んでいる。どの選択肢も前後に書いてあるような気がして迷うかもしれないが、適切に抽象化する能力を意識的に鍛えてほしい。
- 9 現代のテレビ視聴者と対照的な様子を示す様子を探すのであるから、昔のラジオ視聴者をチェックすればよい。このように、問いの要求を正しくとらえることで考える道筋をつけられるようになっていこう。
- 10 本文の大部分はテレビのことであったが、末尾の部分からもわかるように、テレビだけでなくネットも含めて、現代の情報化社会が、現代人から「複雑なものごとを聞く忍耐力と能力」を奪っているというのが本文の主旨であった。
- 2
- 1 aは「お骨」のおかれた空間の静寂をイメージしてほしい。bは「小鼻」などではないように。c「万年筆」は、インク式で常にほどよくインクがでるような機構のペン。小学生にはなじみの薄い筆記用具かもしれないが、これを機に知っておこう。
- 2 これは確実に正解してほしい。設問で問われていなくても、状況設定は必ず注目し、とくに時代や場面はイメージしておいてほしいものである。出だしにヒマワリやサルビアが咲いているところが描かれていたし、「暑い」ということも何度も出てきていた。
- 3 線①の五行後に「あの、おハルさん、昨日は、ごめんなさい」とある。昨日何かがあって、それについて話をしに来たのである。その続きを読んで、何が話題の中心なのかをおさえよう。
- 4 Aは「唾を飲み込んで」から容易に判断できる。B「きんと」は耳鳴りなどを表すこともできるが、とても冷たいさまにも用いる。C「きよとんと」は「あつけにとられて気の抜けた表情」を表す。
- 5 直前の「わたしは、お祈り、は、しません」と言うときの様子であるのは明らかである。それに続くおハルさんの言葉や、本文後半のかなことのやりとりをふまえて考えると、この涙は、「おハルさんにお祈りしてほしいと言われ、できることならかなえたい」ということと、「しかし、見ず知らずの、それも死刑囚に対して祈るのは倫理に悖るのではないか」ということとの間の葛藤であると考えられる。
- 6 I 「なぜ咲子にとって『無茶』なことなのだと…」という問い方に注目してほしい。咲子の考えを答えたいのである。直接語っている箇所は本文後半に出てくる。それを受けてかなこ視点でまとめ直した文があり、これが一番まとまった表現になっているだろう。II 文字の雰囲気だけに引きずられすぎてはいけない。「誰（何）が」「誰に対して」「残酷なかと丁寧にとどると、「おハルさん（の言葉）が」「咲子に対して」「残酷なのだとわかる。つまり、死刑囚云々が中心なのではないことがわかるのである。では、おハルさんの言動のどこが「残酷」だったのかと考えを進め、かなこはいい子ぶりっこしたのに対し、咲子はおハルさんに反対する意見を勇氣を持って述べたのだということにつながっていく。
- 7 次の段落をまとめていく設問である。「いい子ぶりっこ」が答えの中心になるだろうから、「くせずにく」という形や「くのく」という形にすると書きやすい。
- 8 名前がその人の人生とつながっているように感じられるというやりとりがあった後で、名前を見ている場面である。
- 9 人物像を答える設問では、本文中に描かれていた登場人物の言動（発言、行動など）を、一貫した見方のもとにまとめ直していく作業が要求されている。したがって、最優先すべきは、本文との照合であり、矛盾のないものを丁寧（ていねい）に選り分けていくことが重要である。また、性格などを表す言葉について、より多くの語彙をもっていることが望ましいのは言うまでもないことである。